

「わたしは世の光」



宗教部長
佐々木 哲夫

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

大学礼拝

WORSHIP SERVICE

わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。

ヨハネによる福音書 八・一二

イエス・キリストが語った言葉です。皆さんは、「世の光」から何を連想しますか。その中に、東北学院校歌を入れていただきたいと思えます。校歌は学生手帳にも記されています。一番目の歌詞をここに転載します。

若人われらの理想の国は
青葉の都よ ああ東北学院
(おろかえし)
世の光 わがほこり いざほめよや 友よ
もろこえ あわせて われらの学院

大正十年六月、神学部教授E・H・ゾーグ氏の作詞作曲を中学部英語教師青木義夫氏が翻訳したものです。五番までありますから、折り返し部分は五回歌うこととなります。その冒頭に「世の光」が記されています。ヨハネによる福音書の言葉は、イエス・キリストが自分自身を「世の光」に譬えたこと、また、「わたしに従う者は暗闇の中を歩かず命の光を持つ」というように私たちのルールモデルであることを告げています。

三年ほど前に横手教会を訪れる機会が与えられ、横手教会の初代牧師、本学卒業生の中村月城牧師の次の手記と出会いました。

「私が卒業したのは、明治四十四年の三月、未だ中会の准允も済まぬ前に、横手開拓伝道の任命を受け、ゾーグ博士に伴われて横手町に乗り込んだ。横手には信者も求道者もない、一人の知人もなく、全くの

未知の町。とにかく大町のある旅館に落ち着き、翌日から貸家探しに出歩いたが、容易に見つけることが出来なかった。空き家はあっても西洋人の顔を見ると断られたのである(横手教会ホームページより)。

シカゴ大学神学部を卒業したゾーグは、世の光であるイエス・キリストに従って東北学院に赴任しました。そのことは、校歌とともに彼の足跡が証しています。現在の横手教会の牧師もまた本学の卒業生です。わたしたちも、世の光であるイエス・キリストに倣いつつ、前進したいと思えます。

2013年
サマーカレッジ
秋季特別伝道礼拝特集号



CHAPEL NEWS
第126号

「子どもの本の世界」

マルコの福音書 四章八節



日本女子大学非常勤講師

中村 順子

また、別の種が良い地に落ちた。すると芽生え、育って、実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。

図書館という場で子どもたちと関わってきた体験―学校図書館や専門図書館でのやりとり―を分かち合い、子どもの読書について考えてみたい。

学齢前から小学生を中心とした「読み聞かせ」は、図書館員の仕事の中で最も楽しい業務といえるだろう。子どもたちの様子を直接目にする事ができる。子どもは物語(本)が大好きだということがダイレクトに伝わってくるからだ。子どもたちは主人公になりきって本の世界を生きているようだ。ハッピーエンドでの晴れやかな表情！悪者退治の昔話の場合は、苦闘の疲れ

を癒すがごとく水飲み場に直行することも少なくない。リズムカルなことばの響きに呼応して体は自然に動き出す。こわい話では身を小さくして耳をふさいだりする。絵本の絵は隅々まで味わい尽くされ…。インターネット

全盛の現代でも、子どもたちの様子に変わりはない。子どもたちが自発的に感想をもらしてくれることは滅多にないが、その様子をみていれば一目瞭然、手に取るように伝わってくる。子どもは、本当に、本が大好きだ。本は楽しみ、それ以上でも以下でもない。

物語と一体化する、このような経験を重ねて、子どもたちは読者としての自立の道を進んでゆく。

読むこと楽しみ、楽しむことを通して考えを深めてゆく。子どもと本との関わりをみてみると、大人の責任について考えさせられる。子どもの読書は、大人との関わりからスタートするからだ。子どもの本離れが問題となっている昨今は、特に考えさせられる。

毎年、たくさんのお児童図書が出版される。ジャンルの中は広がり、内容もバラエティに富み、テーマも種々様々、邦訳される国々の数も増えるばかりだ。少数民族の昔話も日本語で読むことができるし、深海や宇宙の不思議も鮮明な写真でみることもできる。本というメディアだけでもこの状況なのだ

ら、他のメディアまで加えたら、推して知るべし。一昔前に比べたら隔世の感がある。この状況をどう捉えるか？子どもの本離れを考える切り口のひとつになるだろう。

みことばが私たちの内で根をはり、実を結ぶためには、自分自身が「良い地」でなければならぬ。私たちは自力での開墾は無理だということをも十分承知しているので、祈り、求め、期待しつつ様々な経験を積み重ねてゆく。この様々な経験の中に読書も含まれるのではないだろうか。

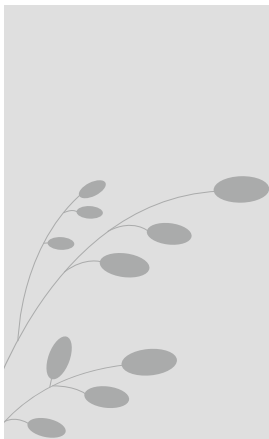
子どもの読書は、まさに開墾のスタートといえるだろう。耕し、育て、基礎を作る大切さは説明するまでもない。子どもの読書の問題は大人の責任、関係ないとはいえないのである。そして、この大人の中には、もちろん大学生も含まれる。

子ども時代は過ぎ去り、親になるのはまだ先だ。しかし、子ども、親、それぞれのポジションが近い過去であり、近い未来であるこの時期こそ、子どもの読書について思いを巡らす最適な年齢といえるだろう。

◆ 中村 順子 氏

一九五〇(昭和二十五)年に生まれる。一九七二(昭和四十七)年都留文科大学文学部国文学科卒業。一九七三(昭和四十八)年学校組合立河口湖南中学校に司書として勤務。その後、財団法人東京子ども図書館、市教育委員会学校図書館専門員、杏林大学外国語学部非常勤講師を経て、二〇〇五(平成一七)年より駿河台大学メディア情報学部、二〇二二(平成三十三)年より産業能率短期大学、二〇二二(平成三十四)年より日本女子大学日本文学部で非常勤講師として勤務し現在に至る。

中村先生には、十月八日(火)に多賀城キャンパス、土樋キャンパス(夜)の礼拝を、ご担当いただきました。



「はじめに言葉があった」

ヨハネによる福音書第1章1節～5節



福音館書店相談役

松居 直

皆さんは、これから生きていく上で、言葉がとっても大切だということをとめてください。人の言葉がきちんと聴ける、自分の気持が正確に人に伝わるという、そういう言葉を養ってください。もちろん学校でもいろんなことを教えてもらいますが、学校での学びは、どうも頭のほうへ知っている情報を告げるってことが中心になっていて、心が動かないということがあります。心が動かなくなる理由の一つに、学校に行く前に赤ん坊は家でお父さんやお母さんの言葉を聴いていて言葉を身につけるのですが、家庭の中での日本語がとっても貧しくなっているということがあります。ですから、子供達が赤ん坊のときから本当に豊かな言葉を両親から聞かされなければなりません。

藝春秋から出ている『りんごの涙』というエッセイ集で語っています。俵さんのお母さんが、自分が二歳のときに『三びきのやぎのらがらどん』という絵本を買ってきてそれを読んでくれた、毎日それを読んでくれたと言っています。そしたら、三歳のある日、絵を見ていたら、まだ字が読めないのに、絵をみていたら言葉がでてきた。ずーっとはじめから終わりまで全部言えた。それにはお父さんとお母さんがびっくりされて、多分録音されたのだと思いますけれども、その録音を大人になって聞いたたら何と原文と一言半句違っていないかと言ったのです。それが、二歳、三歳、四歳の子供の特色です。私の子供達もそうでした。ほんとに、教えないのに全部覚えてしまう。全部覚えていきますから、その本を見て文字のところをずーっと追っていくと字が読めるようになってしまいました。子供にとっては字を読むっていうのは遊びなのです。字が読めるのです。教えられなくても、口から出てくるのです。

『三びきのやぎのらがらどん』の一番最初のところは、「昔、三びきのやぎがいました。名前は何れもがらごとんといいました。あるとき山の草場で食べて太ると山に登っていきました」と書いてあります。瀬田貞二さんの名訳です。日本語のしらべというものが本質を本当に知っているらっしゃる人ですから、翻訳するときそのしらべのつて、いきいきとした形で翻訳をされたのです。翻訳というのは大切な日本語に訳すのですから、その日本語を聞いている子供たちは全部自分の中に取り込んでしまうのです。

皆さんがお使いになられている日本語をもう一度考えてみてください。さらに色んな本を読んでみてください。私にとっては言葉を考えないで生きていくことはできないのです。本当に自分の持っている日本語というものがどれほど自分を表すことができるか、あるいは人が語っている言葉を通してその人の気持がどのくらいわかるかと、そのことを皆さんも考えてみてください。

聖書もそうです。聖書の意味がわかるのかそういうことじゃなく、あの聖書の言葉が、イエスさまがどういふうなときに語られたのか、それを弟子達がどういふうに聞いたのか、それが福音書ですけれども、それをしっかりと私たちが感じることが大切です。それをしっかりと聞かないと聖書のみ言葉を私たちが受入れるということができなくて、私たちがしっかりと生きていく力も育ってこないように私には思えます。どうぞ皆さんが本当に生きた良い言葉をお使いになることをお祈りいたします。

◆松居 直 氏

一九二六(大正十五)年に生まれる。一九五一(昭和二八)年同志社大学法学部卒業。一九五二(昭和二七年)福音館書店創立に参画し、編集部長、社長、会長を歴任。一九九七(平成十)年より福音館書店相談役に就任し現在に至る。

一九五六(昭和三十)年には月間物語絵本「こどものとも」を創刊。編集長として赤羽末吉、長新太、堀内誠一、安野光雅、加古里子、中川李枝子ら多くの絵本作家を世に送り出す。絵本『ももたろう』(福音館書店刊)はじめ著書多数。

松居先生には、十月八日(火)に泉キャンパス、九日には土樋キャンパス(朝)の礼拝をご担当いただきました。

(礼拝説教の要旨は、後半部分を編集者たちで要約しました。)

サマー・カレッジ

2013報告

「第三八回サマー・カレッジ報告」

大学宗教主任 出村 みや子

豊かな自然の中で学生と教職員が相互の交わりと聖書の学びの時を過ごす宗教部主催のサマー・カレッジが、8月5日(月曜)から7日(水曜)までの2泊3

日の期間、宮城蔵王ロイヤルホテルを会場として開催された。参加者は学生19名(男子学生10名、女子学生9名)、教職員8名であった。

プログラムは参加者が押川記念ホールに集合し、歴史学科四年生の川村純平君による開会礼拝からスタートした。川村君はマルコ福音書10:43-45を選び、キリスト者推薦学生として過ごした自身の四年間の学生生活を振り返りながら人に仕える生き方の大切さについて語り、後輩学生に力強いメッセージを送った。

開会礼拝に引き続いて公開講演が行われ、宮澤賢治と石川啄木の研究で知られる望月善治先生(宮手大学名誉教授、元盛岡大学学長)が「宮澤賢治の生涯…挫折と甦りの生—キリスト教との関係にも触れながら—」の題で講演した。望月先生はパワーポイントを用いて豊富

な映像資料を紹介しながら、途中に賢治に関するクイズや賢治の詩の臨場感溢れる朗読を交え、賢治の生涯の足跡について丁寧に説明された。特に七つもの挫折を経験した不遇の人生であったことが、賢治の高い文学性につながったことや、賢治のキリスト教への関心は、狭義の「宗教」ではなく、「意匠」及び欧米文化への憧れであったことなど、多くの示唆に富む講演であった。

その後参加者は昨年と同様に土樋キャンパスのボランティア・ステーションを訪れ、スタッフの岩崎真実さんからステーションの活動内容や参加方法について説明を受けた後、バスで宮城蔵王へ移動した。ホテルではオリエンテーションおよび夕食の後に、参加者相互の親睦をはかる楽しいゲーム(フルーツ・バスケットやジェスチャーゲーム他)が学生によって企画され、その後に野村信先生のギターの伴奏による「共に歌おう」と佐々木宗教部長による「夕べの祈り」が行われた。二日目のプログラムは、朝食後に総合人文学科三年の長井太君による「朝の祈り」と、「みんなでストレッチ」からスタートした。「みんなでストレッチ」は今年最初の試みであり、二回は日頃の運動不足を解消するために、DVDの画面を見ながらエアロビクスの初歩のステップを体験した。その後「同はグループに分かれて「グループ・ディスカッション」を行い、

前日の講演を聞いた感想や、学生生活全般にかかわる意見交換を行った。

昼食後には遠刈田温泉に自由散策と「こけしの里」見学に出かけた。「こけしの里」では実際に講師の指導を受けてこけしの絵付けを体験したが、これは思いがけず学生たちがそれぞれの芸術的才能を発揮する場となった。細かな筆さばきで見事な出来栄えの作品もあれば、独自にオリジナルなこけしを仕上げた学生もおり、当日夜には急遽「こけしコンテスト」を開催した。一位は言語文化学科一年の高橋千尋さん、二位は情報科学科三年の岩淵風香さん、三位は人間科学科一年の松浦成美さん、それにユニークこけしには経済学科四年の中井愛君の「ゴルゴサティーン」風のこけしと、言語文化

学科四年の大森愛さんのアイアイこけしを選ばれたが、それ以外にも個性溢れるこけしが誕生した。

夕食後には「証と讚美の時」が持たれ、事前に依頼したキリスト者学生四名が証をした。まず大森愛さんが「コヘレトの言葉11」を選び、自分の時間、労力、心を神様のために捧げることの大切さを語り、次に情報科学科三年の佐藤美月さんがマタイ福音書の山上の説教を引きながら、高三の時に受洗を決意するに至った経緯や現在の教会生活について話した。次に人間科学科三年の菊地凌也君が教会生活には人間的な意味で問

題もあるが、信仰生活を守ることは大切だということをもシニア記1:8-9の言葉を引き証しし、最後に言語文化学科四年の岩佐光君が、夜中漁をして収穫がなかった漁師たちが、イエスの言葉に促されて再度漁に出たルカ福音書5:1-11の記事を引いて、時には自分の経験を度外視してチャレンジすることが必要であると語った。その後北博先生の「夕べの祈り」で二日目のプログラムを終えた。

二日目は歴史学科二年の土田悠太君の「朝の祈り」と、「みんなでストレッチ」の後、宮澤賢治の作品のアニメ「銀河鉄道の夜」と「グスコ・ブドリの生涯」の一部を鑑賞し、野村信先生が「宮澤賢治の世界」について、特にキリスト教との関係に焦点を当てて講演した。

最後にキリスト教学科四年の石川礎君がマタイ福音書11:25-30を選び、閉会礼拝を担当した。石川君は学生時代に試験やアルバイト、卒業後の進路、東日本大震災などを経験したことに触れ、それらの重荷は一人で背負ってきたのではなく、主イエスが共に担ってくれているのだと語った。

サマー・カレッジでは、日頃は交流する機会のない学生同士が出会う機会を大切にしてきたが、今年は特に四年生の参加者6名がリーダー的役割を果たしてくれたことに感謝したい。

サマー・カレッジ

講演Ⅰ、Ⅱ

【二つの講演を振り返って】

大学宗教学主任 野村 信

今夏のサマー・カレッジは、「人物を通して学ぶキリスト教」という主題のもとで、宮沢賢治をめぐる二度の講演会をもち、豊かな学びの時間を過ごすことができた。紙面の都合上、その様子については十分に報告出来ないが、その一部をここで紹介しておきたい。

初日の八月五日午後二時から開催された第一回講演会は、若手大学名誉教授・望月善次先生(宮沢賢治学会理事)をお招きし、公開講演会として学内外に周知し、カレッジ参加者以外の出席者も加えて盛会裡に終了した。

講演題は「宮沢賢治の生涯(挫折と蘇りの生)キリスト教との関係に触れながら」であった。宮澤家や関係の方々のご協力によって入手された貴重な写真を含んだスライドによって、六つのテーマから賢治の生涯とその思想を詳細に解説された。特に、賢治研究は研究者の見る角度によってそれぞれ多様であると指摘され、望月先生から見た「賢治の生涯私見五点左右」な点が「まればか」についてお伺いした。七つもの

挫折を乗り越えて、情熱的な生涯を送った様子を丁寧に紹介してください。時折、聴衆にクイズを幾つか出して質問する場面もあり、楽しい一時でもあった。

賢治の宗教意識については、熱烈な仏教徒(日蓮宗)であり、同時にアニミズム的な自然観をもっていたことに触れ、賢治のキリスト教の理解については、日蓮宗のもつ一神教的仏教という点からキリスト教への親和性があったことを指摘された。それは何度か宣教師たちとの関わりがあったことや『銀河鉄道の夜』に見られるようなキリスト教理解があったことにもよる。

講演の最後に、「賢治の生涯は世間的に言えば成功した生涯ではなかったが、彼の不遇の生涯、挫折の生涯の懸念さが、高い文学的結実と共に、私たちの心を打つのである」と語られ、九〇分間の貴重な講演を締めくくられた。

第二回目の講演は、サマー・カレッジ三日目に、私が「宮沢賢治の世界と題して短い講演を行った。最初に『銀河鉄道の夜』のDVDからキリスト教と関わる部分を鑑賞した。特に沈没したタイタニック号の犠牲者たちが讃美歌「主よみもとに」を歌いながら列車を降りていく時に、ジョバンニと交わした会話の部分は賢治のキリスト教観を知る上で大切なところであったので、ここ

は飛ばさずに丁寧に鑑賞した。

さらに、物語の最後に友人のカンパネルラが溺れた友を助けに川に飛び込んで自らは命を落とした部分も自己犠牲的な愛の表れとして一同でその場面をしつかりと眼に焼き付けた。

鑑賞の後、短く賢治のキリスト教観について講演した。賢治の宗教観には、仏教とかキリスト教といった宗教そのものを超えて一人の神がいるという信仰があったと語った。その部分を引用しよう。

「あなたのかみさまってどんな神さまですか。青年は笑ひながら云いました。

「ぼくはほんとうはよく知りません、けれどもそんなでなしにほんとうのたった一人の神さまです。」

「ほんとうの神さまはもろんなたった一人です。」

「ああ、そんなでなしにたったひとりのほんとうのほんとうの神さまです。」

(『銀河鉄道の夜』ポプラ社一八九頁)

なお『グスコープドリ』のDVDも短く紹介したが、そこにも自己を犠牲にして人々の幸いのために命を捨てる主人公の姿があることを確認した。

今回は、若手県で生きた宮沢賢治について学ぶことで、身近なところで人々のために尽くす情熱的な生があっ

たことを深く心に留めることが出来た。賢治やこういった人々についてさらに学びたいという意欲が湧いてきた人は私だけではないだろうと思いい、感謝の念に満たされて今回の学びは終了した。

(写真は、講演中の望月善次先生、こけしはサマーカレッジ参加者の作品)



各キャンパスのメッセージ

Tzumi

泉キャンパス
大学宗教主任

野村 信



高 温、多雨の季節が終わってすっかり野山は色つき、冬の気配すら漂っています。皆さんの勉学や大学生活での今年の実りの手ごたえはいかがでしょう。旧約聖書の詩編には秋の実りを喜ぶ歌があります。

「人々は麦とぶどうを豊かに取り入れて喜びます。それにもまさる喜びをわたしの心にお与えください。」(詩編第四編八節)

秋の収穫は、私たちの生活を豊かにし、喜ばせてくれますが、それにもまして、神からの与えられる私たちの心と魂への喜びは欠かせないものです。詩人が秋の実りを通して、心の実りを求めた姿勢に学びつつ、私たちの大学生活、学びの充実を特に願いたいと思います。

そのためには、よく読書し、執筆し、熱心に聴き、語らい、先生方や学生同士の交流を大切にしたいと思えます。引き続き、良い大学生活を送り、様々な活動や取り組み、なによりも大学礼拝から学び続けてください。

Tagazyo

多賀城キャンパス
大学宗教主任

佐藤 司郎



も うクリスマス？。毎年、時間の速さにびっくりする。「そう、もうクリスマス！」。目前の課題をこなすのにあくせくしているわれわれに、それは、「立ち止まれ、神にこころを向けよ！」と語る。

以下の聖書の言葉をかみしめたい。

わが主なる神は、こう言われた。「お前たちは、立ち帰って、静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」と(イザヤ三〇章二五節)。

前八世紀の預言者イザヤは、苦境を自分の力で打開しようとせず、ほんとうの神様により頼むように、これらの言葉でさとしていた。この時期、静まって、御子イエス・キリストに思いをよせていきたい。

Tsuchitoi

土樋キャンパス
大学宗教主任

出村 みや子



秋 の特別伝道礼拝では絵本にかかわる活動をしてこられた講師のお話しを聞きましたが、幼い頃に絵本を読んでもらったことを懐かしく思い出した学生もおられることでしょう。私たちの様々な社会活動の営みも、実は多くの人々の語りかけや、絵本を読んでもらう体験の積み重ねから始まっているのです。東北学院大学は創立以来礼拝を大切に守ってきましたが、それは聖書のみ言葉を聞く日々の歴史でもあります。私たちの幼少時には誰かの語りかけを聞く体験が欠かされたように、大学礼拝で御言葉を聞くことは人格形成にとって大切です。パウロは「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」(ローマ書10章17節)と語りました。若き日に播かれた福音の種が、時を経て豊かな実を結ぶことを願って日々の大学礼拝が行われていることを覚えていたいと思います。

◆クリスマス礼拝のご案内

★第二十四回泉キャンパスクリスマス

十二月八日(金) 十八時三〇分
泉キャンパス礼拝堂

第一部

礼拝

説教者：石巻山城町教会

関川 祐郎 牧師

第二部

クリスマスコンサート

クリスマス・メドレー演奏、学生有志合唱団、みんなで歌おう、キャンドルサービス、他

★大学クリスマス

泉キャンパス：十二月十九日(木)

十時三十分

土樋キャンパス：十二月十九日(木)

十六時三十分

多賀城キャンパス：十二月二〇日(金)

十時三十分

説教者伊豆長岡教会

長倉 勉 牧師

オフトリオ「メサイア」合唱

★第六十三回公開東北学院クリスマス

十二月二〇日(金) 十八時

説教者：日本基督教団磐城教会

上竹 裕子 牧師

オフトリオ「メサイア」合唱

編集後記

宮沢賢治について学んだサマーカレッジや実りの秋にふさわしい特別伝道礼拝の講演など、今夏以後の活動の様子を特集しました。執筆に協力してくださった方々に感謝します。学生のみなさんは、これから冬に向けてそれぞれ充実した日を過ごし、良いクリスマスの時を迎えてください。(N)

二〇二三年十一月 東北学院大学宗教部
〒九八〇一八五二

仙台市青葉区土樋二丁目三番一号